

平成20年度 教師海外研修 (派遣国：マレーシア) 実践報告書

1. タイトル マレーシアから地球を考える
2. 氏名 谷本 良枝
- 学校名 大阪市立咲くやこの花中学校 担当教科 英語
3. 実践教科 総合的な学習の時間 (国際理解) 時間数 3時間
4. 対象生徒・学年 中学1年生 対象人数 2学級(79名)

5. カリキュラム案

(1) 実践の目的

- マレーシアについて知る
- 異なった文化をもったたくさんの民族たちが一緒に暮らしているマレーシアからそれぞれ個性を尊重する大切さに気づく
- マレーシアと今の自分の生活とのつながりを知り考える
- マレーシアから地球の未来を考える

(2)授業の構成案

時限・テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
<p>1 限目</p> <p>テーマ： Hello ! Malaysia !</p> <p>ねらい：</p> <ul style="list-style-type: none"> ● マレーシアを知る ● 異なった文化をもったたくさんの民族たちが一緒に暮らしているマレーシアからそれぞれ個性を尊重する大切さに気づく 	<ul style="list-style-type: none"> ● 夏休み中ドゥスン族の村でホームステイ経験を簡単に説明 ● イニアパ?クイズ (マレーシアに関係する写真やモノからそれらが何かまたは何に使われるかを考える。) ● 答え合わせをスライドで説明 (ワークシートに記入していく) ● 「感想や疑問に思ったこと」記入 ● マレーシアの漫画家・LAT さんの言葉を紹介 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>“A variety of identities from different cultures and ethnic groups; yet we are all Malaysians. All of the characters are unique.”</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ● 「異なった文化をもったたくさんの人たちが一緒に暮らしていくにはどんなことが大切と思うか」を考えさせて記入 	<ul style="list-style-type: none"> ● ワークシート ● パワーポイント ● 写真 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>冷房しかない車のクーラー 多言語の看板 礼拝用のじゅうたん トイレでお金をとる女性</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ● ドリアンキャンディーの袋 ● インド系のサリー ● セパタクローの球
<p>2 限目</p> <p>テーマ： マレーシアとのつながりを知ろう！</p> <p>ねらい：</p> <ul style="list-style-type: none"> ● マレーシアと今の自分の生活とのつながりを知り考える 	<ul style="list-style-type: none"> ● 各班でたくさんの写真を5つのグループに分けて、なぜそのグループになるのかを考える。 <p>※アブラヤシの写真を2枚入れておく なぜ2枚あって、2つのグループに入るのかも考えさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 正しくグループ分けされた写真が印刷されているワークシートを配布し「なぜこのグループ分けになるか」をさらに考えさせる ● パワーポイントで日本とマレーシアのつながりを説明 	<ul style="list-style-type: none"> ● パワーポイント ● パーム油が使用されているお菓子の袋 ● DVD『素敵な宇宙船地球号 ボルネオ島・子ゾウの涙(前編)』 ● 写真 <p>①マレーシアにも伝わる日本の文化(漫画・歌など)</p> <p>②戦争の歴史(独立の様子・壁画・日本政府のマレーシアドルなど)</p> <p>③からゆきさんの歴史(日本人墓地・サンダカン八番娼館など)</p> <p>④パームオイルが使われ</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ● ④の植物油脂が使われている商品と日本とマレーシアのつながりまでを説明し ● ⑤の説明には DVD を鑑賞 ● 「どんなふうに分たちの生活がマレーシアとつながっていると感じましたか?」「DVDの感想」を記入 	<p>ている日本の商品 (商品、アブラヤシの説明の 写真やグラフなど)</p> <p>⑤アブラヤシによって傷つ く動物たち(ゾウ・オラウ タン・アブラヤシなど)</p> <ul style="list-style-type: none"> ● ワークシート ● 宿題プリント
<p>宿題</p> <ul style="list-style-type: none"> ● DVD に出てきた人たちのそれぞれの主張を表に記入してくる (NGO・マレーシア政府・アブラヤシ農園の経営者・日本の消費者・日本の企業・ボルネオ像) ● オラウータンのウータンからの手紙を読んで質問に答えてくること (わからないことは自分で調べてくること) 		
<p>3限目</p> <p>テーマ: マレーシアから地球の未来 を考えよう!</p> <p>ねらい:</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 環境や動物に関する課題 や問題は他人事ではなく自 分も関わっていることに気 づく ● この授業で紹介されている ような地球全体で取り組む べき課題が世界にはまだま だたくさんあることに気づ く。 ● 地球のために自分は何が できるかを考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 前回の宿題のチェック ● 『アブラヤシをとりまく課題を解決する9 つの方法”ランキング』 ● ※9番目は自分のアイデア ● なぜそのランキングにしたかも記入 ● 他の人のランキングをきいてどう感じた かを記入 ● オラウータンのウータンから の手紙に返事を書く ● ※自己紹介は英語 ● ※以下のことは日本語で記入 <ul style="list-style-type: none"> ・ウータンの住むマレーシアについて自 分が知ったこと、考えたこと ・ウータンに伝えたいこと ・ウータンに質問したいこと ・ウータンにわかってほしいこと 	<ul style="list-style-type: none"> ● パワーポイント ● ワークシート ● 『アブラヤシをとりまく 課題を解決する9つの 方法”ランキング』 ● ウータンへの返事用 プリント
<p>後日、日本語部分をわたしが英語に訳してマレーシ アのオラウータンリハビリテーションセンターに郵送</p>		

6. 授業の詳細

1 限目「Hello ! Malaysia !」

《生徒の反応》

- 3学期以降の調べ学習につなげるために生徒たちが疑問に思うことを見つけることに重点を置いて授業をしたら「右手でご飯を食べて左手でおしりをふくなら、左利きの場合はどうするのか？」などおもしろい疑問もたくさんでてきていた。
- 学校もいろんな考えや個性を持った人たちの集まりであるということをもまえ『異なった文化をもったたくさんの人たちが一緒に暮らしていくにはどんなことが大切と思うか』という質問に対して「自分が正しいと思うんじゃないくて相手のことを知り認め合いながらどんな人でも受け入れる気持ちを持つことが大切。マレーシアだけじゃなく日本でも大切。」という意見や「郷に入っては郷に従えというように一人だけなら今まで自分がやっていることをすればいいけど大勢でいるときはみんなにあわせていけばいいと思う」という意見がでていた。中には「宗教や文化を一つにまとめたらいいいと思う」という意見もあった。



2 限目「マレーシアとのつながりを知ろう！」

《生徒の書いた感想の一部》

- 日本とマレーシアは良い意味でのつながり嫌な意味でのつながりがあった。嫌なつながりは減ることはないけどこれ以上増えないようにしたい
- マレーシアは日本の植民地だったが、苦しい思いをしたのはマレーシアの人々だけでなく（からゆきさんなど）日本も同じだった。
- 漫画や歌や経済や貿易や歴史でつながっている
- アブラヤシが増えたせいでマレーシアの動物が困っていることを初めて知って驚いた。これはマレーシアの人たちだけでなく消費する側にも問題があるんじゃないかと思った。
- みんなそれぞれ生きるために一生懸命だとわかった
- 人間はとても勝手だ
- マレーシアはいろいろな民族がある中で仲良くやっているのだからゾウともうまくやればいいと思う
- 前から人間が他の動物に迷惑をかけていることは知っていたけど、身近(?)にあるパーム油にまでそういう問題があるなんて知らなかったし、力になれないもどかしさを感じた
- 今、人々が得ているものが、誰かがの苦労や痛みがあって得られているのだと思った



3限目『マレーシアから地球の未来を考えよう!』

『アブラヤシをとりまく課題を解決する9つの方法”ランキング』

- 1) アブラヤシやパーム油が使われている商品を使わない、買わない
- 2) 環境を守るためのプランテーションにかえる
- 3) プランテーションのまわりの環境をまもるために日本からお金を与える
- 4) 日本で勉強会などをひらいて現状をしり、解決策を考える
- 5) 企業（アブラヤシで利益をえている会社など）と話あって、アブラヤシを商品にするときの基準（ガイドライン）や規則をつくる
- 6) アブラヤシをつくっている人や会社や国にまかせる
- 7) できるだけ多くの人にアブラヤシをとりまく問題に関して知ってもらう
- 8) もっとアブラヤシをつくってもっとつかう
- 9) それ以外で自分の考えた方法

生徒が自分で考えた解決法の一部

- | | |
|--|---|
| ■ パーム油の代わりになるものを国どうしが協力して改発する | ■ もっとアブラヤシを知る。考える。実行する。 |
| ■ パーム油を沖縄でつくる | ■ もっとアブラヤシの値段を高くして、アブラヤシを使用している製品の値段に消費税のような環境を守るための費用を加えてそのお金で植林する |
| ■ 日本がちょっとずつ自立する。(輸入にたよらない) | |
| ■ アブラヤシの商品を使わないとか決めつけるのではなく一人一人が無駄使いしないようにする | ■ ゾウの通り道を使っているプランテーションの人にやめてもらい違う職業を探してあげて植林する |
| ■ プランテーションと森林が合体したものをつくる | |
| ■ 日本人が見本をみせる。 | |
| ■ ゾウにもアブラヤシをあげる | |

《生徒の反応》

- 真剣に考えていた。「これでいいのかな？」と言いながらランキングする生徒と、「この方法しかない！」と強気でランキングする生徒にわかれていたように思う。しかし、みんなでいろんな意見を交換するうちに「自分が反対だったことが賛成の人もいたので驚いた。」という感想や「一人一人意見が違うんだなと思った。だからもっとたくさんの人に意見をきいたほうが良いと思う。」という感想がでてきた。
- いろんな解決法を考えていくことを通して「自然に関するボランティア活動をもっとしたいと思った。」「いろんなことを知ってちゃんと行動しないといけないと思った。」という感想もでてきた。

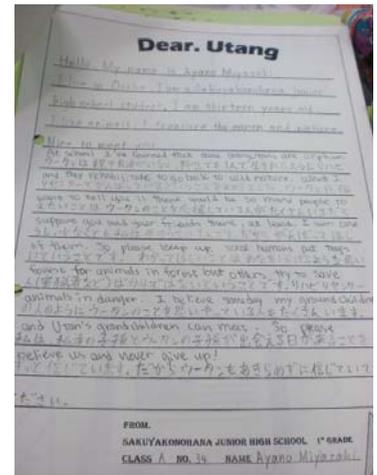
7. 授業実践後の所感・反省・改善点

私にとっても正解のない難しい課題だったが生徒たちはなかなか真剣に考えてくれていた。最後のまとめとして「ウータンへの手紙の返事を書くよ」と伝えた時、生徒たちは「ウソやろ？」と信じていない様子だった。

しかし実際に切手を貼れば届くし、生徒たちが日本の教室で考えたことや思ったことが実際にマレーシアにつながっていくことを伝えることができた。歴史、文化、貿易などのつながりから「何円の切手でマレーシアに手紙は届くかな？」などいろいろな方法で世界とつながっていることが伝えられたと思う。

手紙の中には他の地球で起こっている問題の例を挙げている生徒もいた。この授業をきっかけに地球で起こっているいろんなことに目をむけてくれていてうれしい。もしリハビリセンターから返事がきたら是非授業で紹介したい。

反省点として、生徒たちの中には植林さえすれば森がよみがえり、リハビリさえうければオラウータンは野生の森に帰れると思って「植林している人がいる」「リハビリ施設が存在している」という事実安心している生徒が多かった。リハビリの施設で死んでしまったり、野生の森に戻っても生きていくことができないオラウータンがいることや、植林に関してもすべての植林がオラウータンの生活には有効ではないことなども伝えておく必要があったと思うので今後伝えていきたい。



8. 参考資料・引用文献

鈴木 晃著『オラウータンの不思議社会』岩波書店2003

安西 剛編集『世界の子どもたちは今9 マレーシアの子どもたち』学習研究社

DVD『第374回 すてきな宇宙船地球号～ボルネオ島・子ゾウの涙』2005年3月20日放送

Malaysia Airlines『going places』2008年8月号(LATによる表紙とコメント)

